

都市と劇場

～劇場法以後の公共ホールの役割と活動を考える～

公益財団法人 びわ湖ホール
総括アドバイザー 井上 建夫

I びわ湖ホールの活動

(滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール)

1 施設

- ・開館 1998(平成10)年9月5日
 - 大ホール 1848席(ピット使用時1712席)
 - 中ホール 804席(ピット使用時692席)
 - 小ホール 323席
 - その他 リハーサル室、練習室3、舞台芸術情報サロン等

2 運営組織

・指定管理者 公益財団法人びわ湖ホール

・職員数(常勤) 55人 (2016(平成28)年4月1日現在)

県派遣	11
県OB	1
プロパー	14
文化振興事業団派遣	3
期間職員	15
嘱託職員	6
臨時職員	5

・芸術関係スタッフ

芸術監督(非常勤) 1

声楽アンサンブル団員(雇用契約) 15(定員16)

3 運営状況

(1) 2015(平成27)年度自主事業の状況

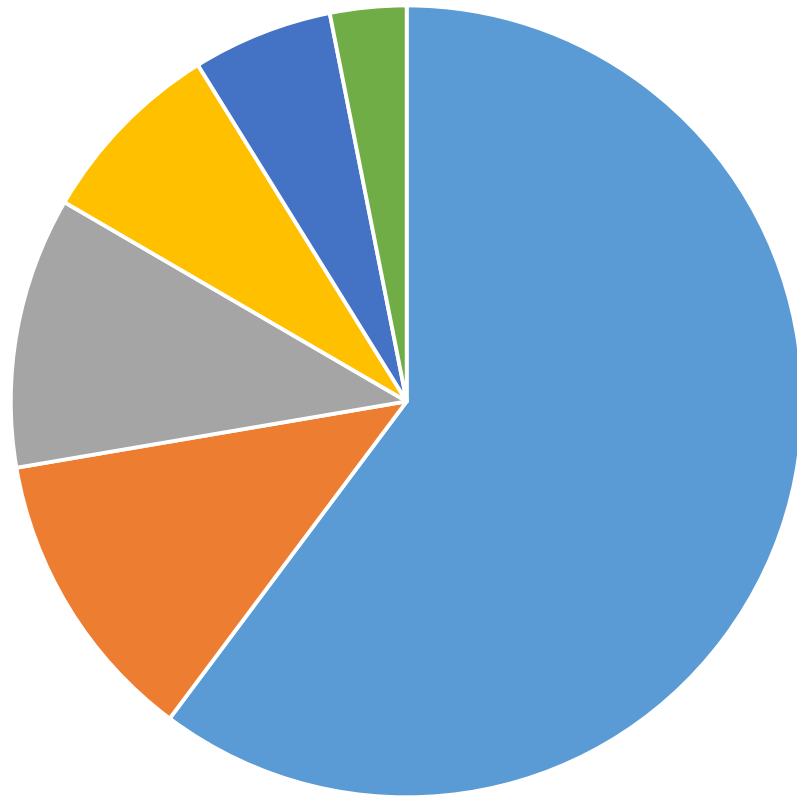
区分	事業数 (内訳)		公演数	入場者数	
自主公演	大ホール	9	オペラ：1、オーケストラ：3、バレエ・ダンス：2 室内楽・器楽：2、フェスティバル (LFJ)：1	15	19,330
	中ホール	13	オペラ：3、室内楽・器楽：1、演劇：4、古典芸能：2、 バレエ・ダンス：3	25	14,827
	小ホール	9	室内楽・器楽：6、声楽：3	20	5,163
	その他	—		14	2,635
	計	31	オペラ：4、オーケストラ：3、バレエ・ダンス：5、 室内楽・器楽：9、声楽：3、演劇：4、古典芸能：2 フェスティバル：1 (LFJ)	74	41,955
普及事業	25	LFJ (普及)：1、プレトーク・アフタートーク：3、 オペラ入門講座：3、オペラ上級講座：1、 古典芸能入門講座：2、ワークショップ：4、 アンサンブルの楽しみ：1、ロビーコンサート：1、 指揮者セミナー：1、声楽アンサンブルオペラ：1、 声楽アンサンブルロビーコンサート：1、地域協働公演：1、 ふれあい音楽教室：1、学校巡回公演：1、歌曲研修：1、 音楽会へ出かけよう(ホールの子事業)：1、東京公演：1	183	46,689	
共催等	17	共催：6、協力：7、後援：4	25	26,551	
合計	73		282	115,195	

3-(2) 2015(平成27)年度来館者数

	平成27年度		平成10～27年度合計	
	公演数	来館者数	公演数	来館者数
1.自主事業	266	95,445	2,305	1,048,638
自主公演	74	41,955	925	601,395
オペラ・ミュージカル	8	6,570	177	170,594
オーケストラ	9	11,980	94	123,160
バレエ・ダンス	6	4,961	106	85,460
演劇・古典芸能等	8	4,293	189	92,704
室内楽・声楽等	43	14,151	359	129,477
普及事業	183	46,689	1,153	267,155
県民芸術劇場	-	-	30	26,280
夏フェス関連	-	-	62	15,131
共催(協力等除く)	9	6,801	135	138,677
2.貸館事業	255	199,280	3,970	2,641,489
舞台芸術	233	180,300	3,257	2,187,083
大会等	22	18,980	713	454,406
小計(1+2)	521	294,725	6,275	3,690,127
3.視察、見学等		119		26,332
4.技術研修		72		374
5.出演者、スタッフ等		43,490		641,276
総計	521	338,406	6,275	4,358,109

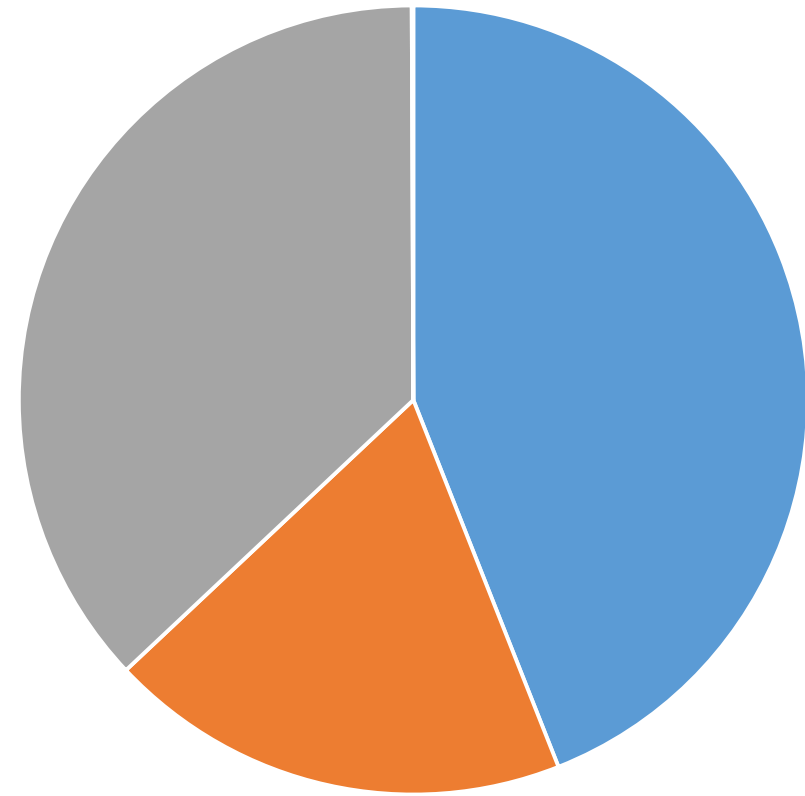
3-(3) 2016(平成28)年度予算概要

収入(1823百万円)



- 県指定管理料等(1,098)60%
- 事業収益(221)12%
- 利用料金収益(202)11%
- 国補助金(142)8%
- 民間助成金等(104)6%
- その他(57)3%

支出(1823百万円)



- 自主事業費(802)44%
- 財団運営費(346)19%
- ホール管理運営費(673)37%
- その他(1)0%

4 事業面での特徴

(1) 自主制作のオペラ

- 芸術監督を中心に職員で企画制作
- 国内の劇場・団体との共同制作
- 海外の劇場との共同制作
- 専属声楽アンサンブルの出演
- 地元の大学・団体等との連携

4-(2) 専属声楽アンサンブルの活動

- 定期公演(年3~4回+東京公演)
- 自主制作オペラ・自主事業への出演
- 学校巡回公演等への出演
- 依頼公演への出演
- スピンアウト・ユニットの活動

びわ湖ホール四大テノール、イル・ドングリ

4- (3) その他の自主企画・制作事業

- ・芸術監督のリーダーシップによる自主企画コンサート
- ・声楽アンサンブルおよびOB・OGメンバー出演のコンサート
- ・演劇、舞踊等では、国内外との共同制作など

4-(4) 普及事業とパブリック・リレーションズ

①次世代・子どものための事業

- ・びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！
（小学生対象学校鑑賞公演 9080人（2015年度））
- ・声楽アンサンブル学校巡回公演
（毎年約10中学校・小学校）
- ・ふれあい音楽教室（毎年約8小学校）
- ・びわ湖ホール・シアターメイツ（1629人）

4-(4)-②気軽に鑑賞・参加

- ・ロビーコンサート
- ・ラ・フォル・ジュルネびわ湖キオスク
- ・避難訓練コンサート
- ・BONダンス★大会
- ・びわ湖ホール まるっとステージツアー

4-(4)-③学習的アプローチ

- ・オペラ入門講座、バレエ入門講座、古典芸能鑑賞講座
- ・公演に関連するプレトーク・アフタートーク・ワークショップ

4-(4)-④ステージへの参画

- ・みんなで作ろう！オペラ『森は生きている』
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい
- ・ラ・フォル・ジュルネびわ湖でのステージおよびキオスク
- ・ジルヴェスター・コンサート/合唱団・ファンファーレ隊

4-(4)-⑤人材育成

- ・声楽アンサンブルの設置
- ・オペラ指揮者セミナー
- ・公開マスタークラス
- ・舞台技術研修
- ・インターンシップ、研修生の受け入れ

4-(4)-⑥連携・連帯・協働・協力

- ・びわ湖ホール友の会

 - 一般会員2820人、サポート会員244者262口、
特別会員110者136口

- ・びわ湖ホール舞台芸術基金

 - 2011(平成23)～15(平成27)年 累計50,047千円

- ・びわ湖ホール劇場サポーター(43名)

- ・ラ・フォル・ジュルネびわ湖/にゃんばら先生の音楽アトリエ

 - ～滋賀次世代文化芸術センター

- ・ラ・フォル・ジュルネびわ湖/書道パフォーマンス ～(公社)滋賀県書道協会

- ・びわ湖大津秋の音楽祭 ～大津祭、大津市中心市街地ホール・団体

・文化・経済フォーラム滋賀（任意団体）

○目的

文化、経済、学術、マスコミ、行政など多様な分野で活躍している人たちが一体となり、県内の文化活動を活性化し、もって滋賀県の文化・経済の発展に寄与する（滋賀県文化振興条例（2009（平成21）年）の制定を機に設立）。

○会員数 223（個人136、団体・企業87）

○事業

「文化で滋賀を元気に！ 賞」の贈呈、文化ビジネス塾の開催、近江屋研究プロジェクト、文化経済アートステージの開催ほか

Ⅱ 劇場をめぐる環境

芸術の社会的意味の変化
(近代社会で占めていた芸術の地位の低下)

芸術の変化

芸術を支える
市民層の変化

社会制度による支え

- ・文化芸術振興基本法
(2001年)
- ・劇場、音楽堂等の活
性化に関する法律
(2012年)

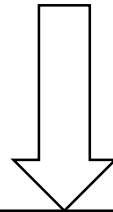
Ⅲ 劇場法以後の公共ホールの役割と活動

～一つの方向～

- 劇場を支える観客層を厚くする

近代社会のコンサートを支えていた市民層の新しい形での再生

- 劇場の変革(組織強化、運営の活性化、人材の確保と育成)を進める



- 芸術というモードへの理解を深める

→ 芸術体験の積み重ねと社会性への理解

※都市は多様なモードがせめぎ合う場
モードは生き方であり文化である

- 現実的な戦略

- 劇場法の制度的支援

- 地域での認知と支持

= 指名で受ける指定管理者